

第10回キッズパレード集会アピール

(2016年4月24日)

「保育園に落ちたの私だ」と声を上げる保護者の運動が日本中に広がっています。厚生労働省は、3月28日、育児休業などを理由に「待機児童」から外した“隠れ待機児童”が、昨年4月の時点で6万208人いることを発表しました。これまで公表された待機児数2万3167人と合わせると8万3375人に上ります。練馬区は、昨年4月の待機児数を176人と発表しており、認可保育園の募集枠に対して今年の第一次申請は1600人超の応募があり、待機児問題は深刻になっています。

保護者の多くは質の高い認可保育所を希望しています。待機児童が発生する主な原因は、認可保育所が足りないことです。又、保育士の処遇が全職種平均で年間100万円も低く、仕事を続けられない環境にあることが、有識者から指摘されています。

また、2015年にスタートした子ども・子育て支援新制度（新制度）のもとでは、認可保育所とその他の施設との保育環境の格差が明らかになっています。小規模施設を卒園した3歳児の行き場がなく、「3歳児の壁」といわれる問題も新たに発生しています。

本来、子どもが健やかに成長する環境を保障し、それに向けた制度や政策を整備することが国や自治体の役目です。しかし、区は保育料の値上げを想起させる発言を繰り返しています。子育て世帯への経済的支援が、今まさに求められるのであって、保護者の家計を圧迫する負担増は許されません。

さらに、学童クラブが「全児童対策」の名目で廃止された自治体もあり、練馬区で始まる「ねりっこクラブ」についても、危惧の声が上がっています。保育園や幼稚園を卒園した児童が、安心して「生活の場」として過ごせる学童保育の充実こそ求められています。

本日、私たちは集会を開き、待機児解消、認可保育所の増設、保育料の値上げ反対、保育環境の整備、学童保育を拡充する大切さを確認しました。本集会の名で、以下の諸点について、区民の皆様によびかけるとともに、練馬区長に対して要望します。

- 1) 保育所の待機児の実態調査を自治体の責任で早急に行い、待機児解消を公的責任で解消すること。そのために認可保育園を増設すること。
- 2) 練馬区で築いてきた、保育園、幼稚園、学童クラブの直営を始めとする制度を守り、充実させること。
- 3) 小規模保育施設、民間の保育施設等の保育環境の整備と職員の処遇改善に向けた取り組みを、保育行政に早急に反映させること。
- 4) 保育園や学童クラブの民間委託、保育の「市場化」の拡大を見直し、子どもの立場にたった「子育て支援」をすすめること。
- 5) 子育て世帯の家計を圧迫する保育料の値上げは行わないこと。
- 6) 全ての認可保育園に看護師・栄養士を配置するなど、保育環境の更なる整備をすすめること。

第10回練馬キッズパレード集会参加者一同